

呼吸器内科レジデント研修カリキュラム

【研修目的】

肺癌の診断から薬物療法までを適切に行うことができる肺がん医療の専門医を養成する

【研修目標】

肺癌の診断に精通し（CT 画像所見が読影できる、気管支内視鏡下超音波生検が施行できる、バイオマーカー検査が適切に行える）、治療方針の決定から薬物療法の実施をガイドラインに沿って適切に行える。

-
- 治験、臨床試験の登録・治療の実施が適切に行える。
 - 肺がん患者の抱える身体的、精神的、社会的問題を十分に把握し、患者・家族への適切な説明・指導が行える。
 - がん薬物療法専門医、呼吸器内視鏡専門医、呼吸器専門医の取得。
 - 肺がんの病態、診断、治療に関する臨床研究を行い、論文にまとめる。

【年度別到達目標】

研修医の経験、習熟度合により変わるが、第一に、肺がんの診断を行い、ガイドラインに沿った適切な治療が実行できるようになることを目標にする。併行して、治験や臨床試験治療などの新しい治療が適切に行えるようになることを目指す。

実臨床と併行して、研究活動も行う。まず、肺癌の学問的・教育的な症例の発表とその報告(論文化)。次に、クリニカル・クエスチョンの解決にかかわる観察研究の立案・実施・結果発表を行い論文にまとめる。

【指導体制】 上級スタッフが全員で指導に当たる。

【研修内容】

1. 肺がん患者の外来および入院での診断・診療を行う。
2. 肺がんの診断技術の習得（CT 画像診断技術・気管支内視鏡生検技術・バイオマーカー検査の知識の習得）
3. 肺がんの治療方針決定に関する知識の習得と実施（手術の適応、化学療法同時併用放射線治療、放射線治療、緩和ケア）
4. 肺がん薬物療法の治療レジメン選択と実施（殺細胞性抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤等）
5. 肺がん以外の胸部悪性疾患（悪性胸膜中皮腫、カルチノイド、胸腺腫など）の診断と治療を実施する。
6. 肺がん薬物療法に関する治験・前向き臨床試験治療へ症例を登録し、治療が適切に行える
7. 肺がんに関する臨床研究を計画・遂行し、論文としてまとめる。
8. 関連学会に出席して知識を得るだけでなく、学会で自ら発表を行う

【週間スケジュール】

1. 外来診療を週に 1～2 枠担当し、新規・再来患者の主治医として診断・診療を行う。
2. 火・木の午前中に気管支内視鏡検査を行う。
3. 木曜日午後に CT 画像所見の読影を行う。
4. カンファランスに参加（①月・病棟症例カンファ、②金・BF カンファ・抄読会、③金・呼吸器グループ合同カンファ）

【研修評価方法】

自己評価と指導医の評価の二本立てで評価することとする。その評価の結果に基づき、目標達成に向けプログラムの変更修正を行うこととする。

最終改訂：令和 4 年 3 月 16 日